

不妊治療中における男性のみの患者会を開催して

Report on patient meeting only for male partner undergoing infertility treatment

○桑原愛¹⁾ 山手志保²⁾ 皆吉田津子²⁾ 森分純子¹⁾ 中岡義晴³⁾ 福田愛作¹⁾ 森本義晴³⁾

1) IVF 大阪クリニック 2) IVF なんばクリニック

3) HORAC グランフロント大阪クリニック

I. 緒言

不妊原因の男女比は半々と言われているが実際は検査や治療の対象は女性が主であり、ネットなどの情報や病院側から提示する情報提供においても女性に関することが多い。A 院においても患者会を開催しているが女性の参加者が圧倒的に多いのが現状である。そこで今回は男性の患者会に対するニーズを調査し、その結果に基づき男性対象の患者会を実践し、患者会の必要性を検討したので報告する。

II. 実践内容

2022 年 4 月から 2023 年 4 月までに A 院を受診した 1488 名の男性患者に対し「患者会に参加希望の有無」「希望日時」「会の内容」「参加したい理由」などニーズに関する Web アンケートを行い、その結果をもとに 2023 年 8 月に男性のみ対象の患者会を開催、終了後にアンケートを実施し会についての評価を行った。倫理的配慮として治療中に得られた情報を個人が特定できないよう匿名化し、学会発表に用いることを文章で説明し同意を得た。

III. 結果

事前アンケートの回答数は 56 名(4%)であり回答者のうち患者会に参加してみたいとの回答は 32 名(57%)であった。2023 年 8 月に事前アンケート結果をもとに日曜日の 10 時～11 時半に女性の治療内容や気持ちを知ってもらうことを目的とした勉強会を開催した。内容は「不妊治療の原因・治療中の気持ち」についての講義と、施設見学では採卵針を見てもらったり、内診台の体験を行った。参加人数は 8 名、平均年齢は 43 歳、治療歴は 3～43 か月であった。患者会終了後のアンケートでは全員が参加して良かったと回答し今後も参加したいとの回答が 6 名(75%)あった。自由記載には「女性の考え方を知れた」「妻がどのような気持ちで診察や採卵を受けているかを知れた」の意見があった。また、治療歴が短い人からは「ステップアップについて知りたい」、治療歴が長い人からは「前向きな話ばかりではなく治療終結に向けた話も聞きたかった」の意見があった。

IV. 考察

事前アンケート結果より、男性も患者会への参加を希望し女性の治療内容や気持ちを理解したいと考えており、男性が女性の実情を知るためには勉強会は有効であると示唆

された。勉強会終了後のアンケート結果からは治療段階によって求めている講義内容が異なることがわかり治療段階ごとに講義内容を検討する必要があると考える。

V. 今後の課題

男性対象患者会を定期的を開催するとともに、治療開始からステップアップ時、治療終結時など治療段階別の患者会を検討していく。